

練習艦

(機関少尉候補生)

四年四月廿七日

二

0550

商議上共ニ

軍令部長

陸軍部

陸軍省

陸軍部

第一號

陸軍部

發付

あ

副官

村松

高

參事官

1949年11月26日 陸軍部

四ノ丸

大臣

次官

軍務局長

代

局員

陸軍部

陸軍部

人事局長

小倉

局員

陸軍部

陸軍部

局長

經理局長

堀

局員

陸軍部

陸軍部

局長

右 財政部長

會計課長

陸軍部

陸軍部

各部

陸軍部

陸軍部

陸軍部

陸軍部

陸軍部

官房機密第九一號

陸軍部

0551

海軍

軍艦 明石

佐世回防方射練習艦

軍艦 酒磨

右海軍機関少尉候補生練昭ノ為本邦
沿岸並香港以東ノ諸島群島沿岸ヲ巡

航
セシナレ

前年ヨリ百ノ次 之數方出ル計ニ奉命出ル

及高海軍也

明治三十四年四月廿日

大臣

海軍省事務長
七

官房機密第一九一號

二傳年表

0552

官房機密第一九一號

三 牒告事

お残る通 油平今部長より書裁可ヲ
送リ付及牒告上取也
明治二十九年四月廿二日 大臣

内務理地大書

外務大書 「牒告」 「通達」 伝

官房機密第一九一號

牒告

皇陛下御連習行

一 年 記 昭 名

此世皇陛下御連習行

0554

(瀬味納)

平祀 活磨

右海軍機要少尉候補生練指ノ初在邦
沿岸至香港以東ノ港至韓至沿ノ存ヲ巡
視セシナリ
右及百餘條也

明治四年四月廿九

次友

付信し友長

坂本武定長

各直

海軍

0555


先
軍令部長    第一班





副官  參事官 

凡午年凡月廿九日起案

發付
四月廿九日

大臣

次官 

軍務局長  代  局員  

人事局長  局員   

經理局長  局員   

艦政本部長  各部   會計課長 

指令案

明石坊一六〇 魏練習 明石浪磨

官房機密第九五號三

海軍

0556


祝路定表、此認許久

明治三十四年四月廿七日

宣

0557

軍務局

教育本部長 

第二部長  第三部長 







官印 

期石第一の號

四月十九日進達

教本第六の號ニ依別紙航路豫定表及提出也

明治四十年五月十日

期石船長 橋本又吉 

海軍教育本部長出羽重遠殿 

教本第九の號

官本第九の號

海軍

0558

寄港地	投 錨	投 錨	航 程	航海時数	碇泊日数	備 考
横須賀	月 日	4 ^日 -28	12	1-30	1	
横濱	4-28	5-4	443	47	5	上海三八先案内ヲ要ス 航海時数ハ十里ニ達 力ニ算ス
四坂島	5-6	5-7	73	7-30	0	
吳	5-7	5-13	14	1-30	5	
江田島	5-13	5-13	78	10-0	0	
徳山	5-14	5-15	105	10-30	0	
博多	5-15	5-20	95	9-30	4	
佐世保港外	5-20	5-22			1	
佐世保	5-22	6-6	647	65-0	14	
基隆	6-8	6-10	195	19-30	1	
馬公	6-11	6-13	330	33-0	1	
香港	6-15	6-19	860	86-0	3	
上海	6-23	6-27	543	48-0	4	
旅順	6-29	7-2	30	3	2	
大連	7-2	7-4	286	28-30	1	
仁川	7-5	7-8	400	40-0	2	
鎮海	7-9	7-13	30	3-0	3	
釜山	7-13	7-15	59	10-0	1	
竹敷	7-15	7-16	125	12-30	1	
瀬戸崎	7-16	7-17	140	14	0	在外ノ航程ハ航海時数ノ數ニ入 算ス
島前	7-17	7-18	135	13-30	0	
舞鶴	7-18	8-2	227	16	14	
相川	8-2	8-4	42	4-30	1	
新湊	8-4	8-6	163	16-30	1	
土崎	8-6	8-7	165	16-30	0	
函館	8-7	8-18	195	19-30	10	
釜石	8-19	8-21	340	34	1	
横濱	8-23					
計			6102	25 ^日 7 ^時		

100

中
心
文
庫

書
目
録

0559-2

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

10/24

供覽

明治三十七年三月

海軍省 衛生部 報告
海軍省 衛生部 報告
衛生状況報告
衛生部

右提出候也

明治三十七年八月廿日

明石長橋本又吉

海軍省 衛生部 報告

司員

小林

田中

松村

田中

海軍

0560

明治四年

海軍機関少尉候補生定期實務練習報告

軍艦明

0561

海軍機関少尉候補生第一期實務練習報告

目録

一 練習の爲に是れを請規定及請配置

甲 機関少尉候補生練習内規 附第一号 巻尾

乙 機関少尉候補生第一期實務練習教科細目 附第二号 巻尾

丙 練習機関少尉候補生基本配置及当直配置

附第三号 巻尾

二 指導者分擔

三 教科細目實施状況

四 教科細目中中止多得実施し得サレシ項目及其事由

五 教科細目外実施シテ教練講話見學

六 教科修了後行ヒテ試験関スル事項

甲 練習機關少尉候補生終末試験次第書

乙 各試験問題

七 練習航海記事

八 練習関白誌概要

九 徴罰疾病等練習候補生人事衛生関之事項

十 練習実験関之事項所見

十一 各実験ニ由テ得ル成績

別冊トス

附第四号 巻尾



海軍機關少尉候補生第一期練習試験問題

操縦法

四時間(明治四十年八月十二日)

(一) 次要件之適應之如ク本艦ノ機関ヲ操縦スル必要ナル最良ノ命令ヲ發ス。

一、本艦ハ明日午前八時出港ノ豫定

二、原速十二浬

三、後罐ハ何レモ満水シヤリ

四、本員第三號罐ヲ補助罐トシテ使用シ午後土時マテ自熱電燈ヲ點ス

五、本日午前八時ニ於テ第三号罐及後罐ノ外何レモ残汽壓十英

斤ヲ有ス

(二) 主機械ノ試運轉ヲ行フトキノ手續方法及注意スベキ諸點ヲ問フ。

(三) 主機械毎分回轉數七十八ニテ航行中、今ヨリ當分ノ内回轉九十四

ニ航行シ命ヲ接シテ、其際潤滑油ノ有効使用法如何。

- (四) 全速航行中、運轉急止ノ令アリタルトキハ、如何ナル處置ヲ執ルベキヤ。
- (五) 本艦於ケル定律焚火法制定ノ方法如何。
- (六) 航海中後艙室ニ甚シク浸水セシトキ、全力駆水ノ方法如何。
- (七) 投錨後機械宜シク自然消火ノ令アリタルトキ、當直機関官ノ執ルベキ處置如何。
- (八) 白熱電燈ト探海燈ヲ點ズルトキ、發電機ノ操縦法及配電法ヲ別々ニ記載セヨ。
- (九) 機械室ヲ航取機械室ニ至ル蒸氣管及弁ヲ畧圖ニテ示セ。
- (十) 航行中片舷主送水機械ニ故障アリテ、使用スルコト能ハザルトキ、兩舷主機械ノ運轉ヲ繼續スルニ如何ナル處置ヲ執ルベキヤ。

海軍機関少尉候補生第一期練習試験問題

整理法

四時間(明治四十年八月十三日)

- (一) 滑頭ノ調整法ヲ詳記セヨ。
- (二) 本艦ニ於テ一週間内ニ一箇ノ内部掃除ヲ完全ニ行フニハ、
幾人ヲ要スルヤ、且ツ配員ノ方法如何。
- (三) 但シ毎日八時間宛作業セシムルモトス、
本艦主機械高壓曲肱不能ニ属シタルキ運轉ヲ繼
續スルニ要スル假修理法ヲ記シ併セテ之ニ要スル兵員數
及時間ヲ豫定セヨ。
- (四) 本艦右舷機械高壓滑弁ノ運動ヲ計測セシニ前
進先開上方十六ミリ下方十二ミリヲ得タリ、適當ニ

之ヲ調整正凡方法如何。

(五) 本艦罐爐筒計測ノ方法及其計測時期ヲ問フ。

(六) 本艦ニ于海員習セル罐ノ一般保護法ヲ記載セヨ。

(七) 石炭塔載前後ノ準備處置並ニ本艦ニ於ケル一時間ノ塔載量ヲ問フ。

(八) 本艦發電機ノ極性、導通、不觸、及絶縁試験ノ方法ヲ問フ。

(九) 各自ノ海員習セル主機械ノ中心検査法ヲ問フ。

(十) 圓罐内部検査ノ際注意スル諸項ヲ列舉セヨ。

海軍機關少尉候補生第一期練習試驗問題

實驗法

四時間(明治四十年八月十四日)

- (一) 本練習中實驗シタル罐水壓試驗ノ方法ヲ問フ。
- (二) 本艦十海里ノ速力ニ對スル實驗馬力及一晝夜ノ石炭内外部油ノ消費額ヲ問フ。
- (三) 高力運轉前施行スベキ準備並ニ同運轉中特ニ注意スベキ事項ヲ問フ。
- (四) 各自ノ實驗セル最良ノ主機械指壓圖撮取法ヲ詳記セヨ。
- (五) 火床面積ヲ一時減サセシムル方法如何且如何ナル場合ニ之ヲ施行スルヲ可トスルヤ。
- (六) 主機械ノリニクヲ更整スル目的及其方法如何。

0568

海軍機關少尉候補生第一期練習試驗問題

部署及配置 三時間(明治三十八年八月五日)

(一)(二)

本艦機關部ノ基本配置ヲ説明セヨ。

本艦機關部現在ノ定員ニ就キ、尤ノ諸員ヲ除キ、

四直航海配置ヲ編成スルキ、各直ノ機械室員雜

室員及補助機械員ノ數ヲ幾名宛ニスルハ適當

ナリ。

但シ十哩ノ速力ヲ航行セシトス、

役員 八名

工業員 二名

汽艇員 二名

休業患者一名

(三)

兵員ノ配置ヲ定メ、或ハ之ヲ變更セトスルキ、考
慮スベキ要點ヲ問フ。

(四)

本艦現定員ニテ、最モ適_当機關部准士官以上
戦闘配置ヲ作シ。

0570

八練習ニ関スル日誌概要

明治四十年四月

軍艦明石

記 事

四月 五日

機関少尉候補生指導官 年々 松岡大尉

細島伸三助

全

右 機関大尉

松尾雅三

午後三時機関少尉候補生主任横須賀軍港ニ於テ衆艦艦長

室ニ於テ候補生一同ニ訓諭後士官室士官次室ニ於テ士官

照会而甲板ニ於テ衆員一同照会アリ終テ衣服箱食卓

釣床等ヲ定ム

艦長ノ訓諭ノ要項

一 學校ニ於テ修得シタル學術ヲ勉勵ト熱心ノ以實地ニ就キ

研究スルキ事及精神修養

一 學校ノ卒業シテ今日ニ在リタル者ニ對シテ大體ノ向キ

0571

四元月 右舷並候補生拜謁及賢所參拜終了振天府拜觀右舷並候補

生休暇

四三(火) 右舷並候補生拜謁及賢所參拜終了振天府拜觀右舷並

候補生休暇

五一(水) 午前九時候補生総員並艦長機関長指導官海軍省

參集海軍大臣及東郷海軍大將ノ訓示終了指導官付

添へテ海軍省京橋杉山電球製造所小石川砲臺廠見學

五二(木) 小石川日本バイナリ製造機式会社小石川アスファルト製造所全明

治云製造所見學終了横濱陸行帰船夕食在機関部

々署、今内規ヲ各自見學ハ内規ニ付テ説明ス

五三(金) 午前機関部々署ニ就テ説明午在教育部本部長檢閲了終

講評候補生ノ訓諭アリ機関部長誌記註心得候補生部

署、今内規ニ就テ説明軍事兵檢台在艦一部ノ候補生ニ産

五四、三

五五、三

五六、月

五七、天

ヲ許ス在艦糧補生ニ喇ハ、護ノ海カシム、艦心得ニ就テ説明

午前七時ヨリ航海当直ニ服セシメテ三時横決抜錨機艦ニ当直勤

務ヲナサシム午前防火操練終ラ次非直候補生ニ機関口誌

記註心得ヲ説明ス午後三時横決出港今四時ヨリ薩教増減ト

燃料ノ經濟ノ關係試定メ指圧圖撮取馬力計測方

航海当直勤務午前九時十五分令隊兵檢中候補生總吏ヲ艦

板整列セシメ指導官之ヲ指揮セリ、薩増減ト燃料ノ經濟

ノ關係試定メ指圧圖撮取及同馬力計測方午前当直勤務

中候補生ノ秋原喜太郎ハ右舷高圧備心器帶輪用遠心注

油装置ニ右梅指ヲ挿シレ切斷傷ス

午前遙拜式ヲ行フ午後一時四十分四坂島ニ抜錨在候補

生總吏指導官附添テ四坂島銅精鍊所ノ見送子ス

午後吳軍港ニ抜錨在入湯ノ為メ候補生總吏上陸ヲ許ス

0574

六八(水)

午前^午三時^午に渡り石炭塔載方法及準備等々実地練習せしむ
終^午入^午法^午為^午候^午補^午生^午總^午員^午上^午陸^午ヲ^午許^午ス

五九(木)

指^午遣^午守^午官^午付^午添^午テ^午呉^午之^午廠^午造^午兵^午部^午製^午鋸^午部^午倉^午庫^午午^午后^午造
船^午部^午造^午機^午部^午兎^午此^午子^午ス^午右^午舷^午一^午部^午候^午補^午生^午入^午湯^午上^午陸^午ヲ^午許^午ス
午後五時^午三^午七^午時^午ニ^午碇^午泊^午勤^午務^午之^午属^午ス^午注^午意^午機^午関^午口^午誌^午記^午註^午
整理法^午勤^午務^午録^午記^午載^午法^午就^午中^午説^午明^午喇^午以^午譯^午ヲ^午聞^午カ^午ル
午後七時^午三^午七^午時^午ニ^午右^午舷^午第^午二^午部^午員^午蒸^午汽^午器^午を^午並^午勤^午務^午後
飲料水補充法^午ヲ^午實^午行^午シ^午セ^午ム

五〇(金)

午前指^午遣^午守^午官^午付^午添^午テ^午候^午補^午生^午總^午員^午軍^午艦^午右^午兎^午此^午子^午午後一
時^午三^午七^午時^午ニ^午於^午テ^午右^午舷^午機^午関^午口^午後^午ノ^午炭^午坑^午祝^午祭^午ヲ^午執^午テ^午講
話^午アリ^午終^午入^午法^午補^午生^午總^午員^午引^午續^午キ^午上^午陸^午ヲ^午許^午ス

五一(土)

指^午遣^午守^午官^午付^午添^午テ^午右^午舷^午電^午力^午ノ^午兎^午此^午子^午

五二(日)

午前^午三^午時^午江^午田^午島^午兵^午隊^午機^午ノ^午兎^午此^午子^午午後四時^午帰^午船^午夕^午食^午在^午リ

五三三

候補生總員の上陸ヲ許ス

正午空時ヨリ航海勤務ノ服セシムル旨十時半後錨午前八時ヨリ

正午迄ノ三番ニテ十哩速力ニ對シテ右舷消炭機ノ試定午午上

時ヨリ左舷機軸室主軸抽氣唧筒故障ト做想ニ右舷機

械ノ修理航行及今時ヨリ全抽氣唧筒手孔ヲ取外シ上弁

ニ向唧子弁ニ向下弁一而ヨリ予備當ト交換セシメ午午一時廿分結

了午午二時戰術操練次ノ右舷機軸室主軸承裏金白

金擦熱為メ銑解セシメ做想ニ左舷機軸室航行同時

ヨリ第主軸承裏金以外ノ予備當ト交換作業ノ手續ヲ行フ

後現台ヲ取付ケシメ午後三時五分結了セリ午午六時十五分徳小

ニ後錨ス午午八時ヨリ候補生總員機関台誌記註方説明

午前八時廿分ヨリ徳山海軍棟炭製造所ノ見學午午後零

時ヨリ候補生ヨリテ航海志願ノ服セシメ午午零時五十分徳

六四六

0576

五二五 逃

出発午後六時五五分部所_三飯泊ス候補生總免_三軍歌_ヲナシム
午前四時_三候補生_ヲシテ航海_ヲ直ニ服セム午前七時_時廿八分部
所_三乗船行中_三合戦準備_三戦闘操練_三及十哩速力_三対ス各氣
算用_ヲ業_ヲインデベンテト_三ソッキンク_三アツブキヤリ_ニシテ調整
法並ニ運轉_ニ急止_ヲ實習_セシム午後三時_三廿分博_多ニ投_ニ鉛_ニ軍
事_ニ兵_ニ檢_ニ台_ニ候補_ニ生_ニ端_ニ舟_ニ漕_キ方_ヲ練習_セシム

五一六 走

午_二則六時_三廿分本艦_三奔_ニ氣_三車_ニ陸行_ニ杖_ニ无_ニ制_ニ衣_ニ鉄_ニ所_三兎_ニ學_ニ
終_ニ午後_三台_三時_三廿分博_多ニ_三旅館_ニ投_ニ泊

五一七 走

午_二則八時_三十分博_多奔_ニ氣_三車_ニ新原_三海軍_三採_ニ炭_ニ所_三兎_ニ學_ニ
終_ニ午後_三大_三午_三田_ニ旅館_ニ投_ニ宿

五一八 走

午_二則七時_三廿分_三ヨリ_三池_三炭_三坑_三及_三大_三午_三田_ニ米_三港_ニ事_ニ了_ニ兎_ニ學_ニ
ラ_ニ午後_三九_三時_三帰_ニ艦

五二九 可

午前_二七時_三廿分_三ヨリ_三候補_ニ生_ニ了_ニ航海_ニ直_ニ服_セシム午前_二七時_三五十分

五月

傳言^救 航行中 午後四時五分ヨリ五時四十分迄候補生
総乗リ^ル 糸停法ヲ実習セム 航行中煤炭焚法^ル 運
転急止法^ル 実習セム 指庄図撮取方^ル 実習セム 午後七時
五分迄世保港外ニ投錨
航行中次非並候補生ニ勤務録記註方、各衷金締メ
方^ル 付録録使用法^ル インデペンデントリンキクア^ル フォキヤ^ル 使
用法^ル 就テ説明

五月

午前二時ヨリ候補生^ル 航海^ル 並ニ服セム 午前五時五分迄世
保港外^ル 糸^ル 合戦準備^ル 午前九時五分迄戦闘操練^ル 次^ル 教
練射撃^ル 施行ス 航行中並ニ候補生^ル 糸^ル 停法及
煤炭焚火法^ル 実習セム 午後七時五分迄世保港外ニ投錨
午前二時ヨリ候補生^ル 航海^ル 並ニ服セム 午前五時五分
迄港教練射撃^ル 施行中指導官並監督^ル 下ニ糸停法

0578

五二二水

実習セム午後八時四十分佐世保港外に投錨

午前五時ヨリ候補生ヨリ艦海者直服セム午七時五十分

港今八時十五分合戦準備元へ復て方午九時十分佐世保軍

港に投錨午後右裏金銀線締メ方就テ説明次々実地

ニ就テ主機械滑頭及曲肱裏金ヲ調整セム夕食后候補

生後心実ニ陸ヨリ許ス

五二三水

午前右舷直候補生ヨリ主機械滑頭曲肱裏金調整方

及罐办部掃除検査低圧気筒内部部検査掃除ノ実習

セム尤舷直候補生ヨリ諸管装置ノ先取ラセム午後諸接

合部及右舷取付用脩帶ニ就テ説明後尤右舷候補生

ノ作甚キ午前ノモト交代セム軍事兵換後尤舷部

候補生入湯上陸ヲ許ス

午則候補生就兵少ヲ遣兵部及需品庫ヲ先其子セム午後

五二四金

五二五
三

時世分三官々舎之於土は造船大技士が造船術進
歩之就キ講誌 吉田中尉が改正銃隊操式草案之就講
誌終之御艇如舷第一却候補生引続キ入湯上陸ノ許ス

午可防火操練 午可九時鎮守府之於之長官訓示後鎮
守府校閲長ヨリ別座心得無主機械向転方向之就ノ講
誌終之之敵會議室之於之付和田垣式特種推進器
関之講誌次ニ試験ヲシケレ付和田垣式推進器別座午
後一時ヨリ、タービンボルト及和田垣式特種推進器運転後長
井技手ノ意匠ニ係ル随用切機械ヲ付シテ、翼付上機械
ニ實地ノ説明終テ會議室之於之ニ推進軸中心検査方法
ニ就キ金十校閲又佐講誌及實地ニ就キ説明終テ御艇
九舷直候補生ハ引続キ半舷上陸ノ許ス
午可石炭搭載午後補生總兵ヨリ海軍水源地別座ナリ

五二六
四

0580

續キ上陸ヲ許ス

五、三、九

海軍紀念日ニ付午前勅諭奉讀並ニ艦長ヲ訓示終テ上陸

一時長官々々令ニ於テ官舎会ニ列席散会后引續キ上陸ヲ

五、三、八

午前八時ヨリ工廠會議室ニ於テ石川造船廠大技士トハバリーニ

製鋼法ニ付講話引續キ工場ニ實地ニ付説明午後高中庄

汽機部内部検査掃除罐内部掃除洗滌法主軸承裏金

取外シ方並ニ検査調整法主軸汽唧筒内部検査掃除実

習セシメ方ヲ請官装置ヲ先取ラシム

五、二、九

午前中諸官装置ヲ先取ラシム証ヲヨリ航海者並ニ服キム午後一時

五ノ九分佐世保出港今五時五分長崎ニ投錨候補生總典上陸

ヲ許ス

五、三、一〇

午前電流ノ方向ノ簡易ニ先出ス^法就キホウタンニムアイオ^ノ

由テ磁針ニ由ルテ稀薄ナル硫酸溶液ニ於テ鉛板ニ患ノ

五三
五

実験ノ主軸元筒蓋解装筒内各部検査並弁調
整主軸後検査調整午後諸管装置ノ見取ニ右舷
一部奥ニ入湯上陸ヲ許ス

午前主湯水各内却洗滌法ヲ実習セム引続キ諸管装
置ノ見取ニ右舷奥形水雷調整ヲ実習セム尤舷一部奥
ニ入湯上陸ヲ許ス

六一
五

午前八時廿分ヨリ三菱造船所見取午後弁電機極性
試験並通試験不能試験絶縁試験ヲ行フ然レ諸
管装置ノ見取ニ右舷奥ニ安全弁添添ノ検査調整法
亦水糸試験尺度用法實地説明並補助給水弁解装
弁実習在力計誤差検測及修正法実習校閲口誌及軍
艦校閲口誌摘要記註法説明ハ食後三菱造船所設備
口誌ヲ説明ス右舷奥ニ入湯上陸ヲ許ス

0582

六二(巳)

房方計、誤差検測給水唧筒諸潤滑装置及油路現状
検査調整保護再銘、配装調査炉筒計測給水唧筒弁
蓋接手磨帶、改装行、元舷弁部東米湯、弁潜
孔及泥抜戸開放取付磨帶換入法実習給水機械解
装法実習元舷弁部東米湯上陸、計、小森甘木
中尾、三候補生、三泊掃者、計、

六三(申)

午前防火操練給水機械分解掃除紐立法出炉筒計測
方実習自給水、現状検査及掃除
午後右舷並半舷上陸、計、

六四(未)

碇泊中、於、本艦出弁、各種水管出、般保護法説明、
第五号缶使用汽母在、水圧試験施行計測器使用法説
明、炉筒計測実習及本船磨帶紐立法施行

六五(水)

主機械、忠葉兵計測方傳心磨帶環調整法実習、發電

機及此高圧機、機解裝検査ニ于テ、其形水雷重要ナ
法並ニ改良ノ案ニ就テ説明ニ于テ水雷並ニ縦舵調整器ニ就
キ講話

不、大、八、七

正午ヨリ航海者直勤務ニ服セシムル午七時ヨリ、長崎拔錨次
日、予、演習自來ノ開始ニ、艦戰準備令戰準備戰術操練防
火防水水雷艇防禦操練ヲ行フ午前十時五十分ヨリ全土時
甲五番迄九艇送水機一台ニテ續航正午ヨリ零時五十分迄左
舷送水機一台ニテ續航午後四時ヨリ右舷機用缶四缶補助
機械用缶ヲ使用シ回転キ八速力十哩ニ対ス、焚火競技並
注油競技ヲ並置配直ニテ行フ

六、七、一、七

午前八時ヨリ、四時ヨリ、競技終了同時ヨリ午後三時迄、右舷機
用缶補助機械用缶ヲ使用シ回転キ八速力十哩ニ対ス、焚
火競技ヲ行フ

✓六八(五)

正午より午前八時迄二缶ニテ八ノ即速カニ対シ右炭消費額試験
ヲ行フ候方ニ對テ演習ヲ行フ午後演習終結航海中

六九(四)

午前九時四十分基隆港ニ投錨午三時候補生總員本船發
台北ニ行キ台湾神社ヲ拜總督官邸ニ於テ晚宴會ニ應
招シ午後十時三十分停船

六一(三)

午前八時ヨリ航海表ニ取リテ午後三時基隆投錨午後四
時ヨリ正午迄使用蒸気圧力九十噸ヨリ右炭消費額試験
ヲ候ニ同正午ニテ使用蒸気圧力四十噸ヨリ右炭消費額
試験ヲ始ム

六二(二)

午前八時使用蒸気圧力四十噸ヨリ對シ右炭消費額試験
結了ス午前十一時十五分馬公ニ投錨右午演習ニ就テ船
長ノ講評ノ午後揚子電機機取扱及電路ニ就テ說明
ト事實ヲ自述シ歸船ニ解換查メテ食後總員上博ヲ許ス

0585

六、三、水
午前馬公要港部修理二場布設汲水製氷所及同船

渠工事見其于午後炭水價銀(右地於之)並(而)由要

水手續之說明及食後候補生總史(上陸)許ス

六、三、水
正午ヨリ航海之直之服也(午)前七時五分ヨリ出港(八時)ヨリ午

後土時迄使用蒸気圧力百三十斤ニ付(右)炭消費試驗行

六、四、金
正午ヨリ午前十時迄使用蒸気圧力九十斤ニ付(右)炭消費

試驗ヲ行(午)前九時廿分至急矣(火)行(右)九時五分

分蒸気及船生(午)前六時十七分接錨(右)候補生總史

入湯上陸(右)許ス

六、五、土
午前十時蒸気筒蓋ノ解裝(右)及吸鏡ノ右部ノ検査并

附屬諸弁條帶ノ調整(及)金屬帶ノ調整(右)行(午)

前候補生(半)艇上陸(右)許ス

六、六、日
午前分隊兵換(右)於(右)候補生(一)部(兵)ヨリ(右)隊(右)付(屬)也

六、七、八

六、八、九

六、九、十

午後試補生半航上陸ノ許ス

午前十、本バンヤードレツ免其ノ午後九時「ホアンホア」航渠

会社ノ免其夕、食后候補生総乗入湯上陸ノ許ス

午前十時三十分ヨリ航海去、服セム午後四時ヨリ午後

十二時迄速力十三哩毎分回転百対馬力、速力及石炭

油ノ消費ノ試験ヲ行

正ナリ、毎分回転百四十対馬力速力及石炭油ノ消費試

験ヲ施行中、午前十時十分、罐室ノ第一室ニ於テ天場機械

ニ通ル塞止弁ヲ閉キ、今蒸釜ト共、弁が離脱シテ

蒸気噴出シ、為ニ守機関大河村信次郎印死セリ、由談

弁及弁蓋ヲ取付ル為、回転ノ感シ談室罐ノ蒸気ヲ逃

散ル、午前十時世々右航機械南庄、南内ニ於テ音響

響ル、世々レキリ、以テ進志、作業、右航機械

0587

続行に左舷板城ヲ停止シテ向南に角蓋ヲ可外シ予
備通吸錫海帶環リ交換ニ午後四時十分漫回スルヲ得キ午
後四時三十分迄毎十分回航九十四分對スル馬力速力石炭油
ノ消費試験ヲ行フ

五、二、五
正午三十分正午迄回航八十六分對スル馬力速力石炭油ノ消費試験
ヲ行フ

六、二、五
午後四時十五分吳淞に投錨

六、二、五
午前五時急吳淞ヲ行ヒ今時三十分航海甚速ニ返セルム午前八
時七分吳淞投錨今十時五分上海投錨午後候補生總吳
ニ陸キ許ス

六、三、三
午前三十分候補生總吳ニ上陸ヲ許ス

六、三、四
午前江南板橋碼頭學子午後九時入龍門艦ノ燃料及之ノ原
因ニ就キ説明

因之就其說明

六二五(五)

午前一時三十分より航海者直ニ服ヨリ午九時三十分海抜錫午
毎八時三十分毎回七十二村ニ馬力、速力石炭油ノ消費試驗ヲ
行フ

六二六(水)

前日ヨリ午二時迄ノ續キ回轉七十二對ニ諸試驗ヲ行ヒ午六
八時三十分毎回四時迄毎分回轉五十四對ニ馬力速力石炭油ノ
消費試驗ヲ試驗ヲ行ヒ午八時三十分毎分回轉五十八對ニ馬力
速力石炭油ノ消費試驗ヲ行フ

六二七(土)

前日ヨリ午八時迄引續キ毎分回轉六十八對ニ諸種ノ試
験ヲ行ヒ午後四時三十分迄毎分回轉六十二對ニ諸種ノ試
験ヲ行フ午後九時迄候補生等ノ隊事務ノ説明ス

六二八(金)

午前九時式ヲ施行シ七時三十分港外に碇留ス全所
後泊中候補生等ノ隊事務ノ説明ス午後三時三十分港

外板鋪午後一時世分港内、投錨、夕食后候補生總員ニ産
ヲ許ス

六元(五)

午前作訂見此子午信黄金山砲台及白玉山ノ納骨堂見此子
終ラ午向四時ニ久信行社ニ於ケル陸海軍高等官親睦會ニ
席

六元(五)

鎮守府各砲台見此子終ラ引續キ上陸リ許ス

七元(五)

午前一時ニ航海各區ニ服セル、今時五分旅順投錨午向
零時共分大連ニ投錨火床面積増減ノ燃料ノ經濟ノ
關係増減ノ燃料ノ經濟ノ關係各連力付ス右ノ消費
額及馬力ハ試定並ニ經濟速力推定付說明ソ非ニ公隊事
務ヲ說明

七元(五)

午前南滿洲鐵道株式會社發電可見此子終ラ引續キ産
許ス

0590

七三(水) 午前十時ヨリ航海至孟服ヨリ午七時至大連拔錨行

ニ向フ

七四(木) 航海中リシクハ夷賊セテ行リ午三時至仁川拔錨

七五(金) 午到京城回至城兜此ヲ為メ本城兜其ヲ向京城ニ泊

七六(土) 午飯帰船

七七(日) 午前一時ヨリ航海至孟服セシハ午九時拔錨ノ吉ノ慶天

候程悪ク為メ出港取止メ引續キ航海至孟服ニ午飯至吳

調合毎法令使用法ニ就キ講話

七八(月) 前日ヨリ引續キ航海至孟服セシハ午七時世々仁川拔錨鎮海灣

ニ向フ合戦準備戦術探練ヲ行フ

七九(天) 航海中運轉急ムルヲ行フ

八〇(水) 午前一時四十分鎮海灣ニ拔錨今九時甲子合拔錨午一時

分釜山ニ拔錨夕食在候補生總吏入湯上陸ノ許ス

七二(木)

午前石炭搭載午後石炭燃焼度ニ就キ講話ス多隊事務ニ
就キ説明ス外車復補用四号車中央炉筒ヨリ自然消火
一第ニ炉筒ノミヨリ使用ス第ニ六号車火床ノ奥火橋前ニ耐
火棟瓦ヲ横一列ニ並べ火床向積ヲ減不一缶ニ付減積七五
号方吹ナリ夕食后候補生総員ニ入湯上陸ヨリ許ス

七二(金)

午前零時ヨリ航海当直ニ服セシメ右舷高压滑弁ヲ取外シ中低
圧筒ニ向テニ回膨脹式ニシ高压筒ハ不能ニ属シタルモト彼定
ニ午前六時世分試運転行ヒタルニ低圧曲脈ノ位置ノ悪キ
為テ起動キナリシ付キ三回膨脹式ニ復旧作業ヲ行ヒ午
前九時五分釜山ニ到キ午後三時世分竹藪ニ入港繫留補用
第百号車中央炉筒自然消火ニシテ午後四時廿分要港
部修理ニ場見遊テ終テ引続候補生総員ニ上陸ヲ許ス
午前一時ヨリ航海当直ニ服セシメ午前五時八分竹藪浮標

七二三

0592

午後五時五分秋ニ投錨補用第七号缶中央炉筒自然
消火ニ続用

七、四

午前二時三十分ニ航海至直ニ服セシメ午前五時廿八分秋ニ投錨
午後九時十五分全隊ニ兵檢施行セシムルニテ左舷一部ノ候補ノ機
庫ノ隊ニ附屬セシメ右舷ニ隊徒屬士官ノ葉集務ニ見做ルルニテ
倉庫ニ兵檢施行セル午後三時廿六分右舷機中ニ滑頭擦
熱甚クシテ遂ニ同機機ヲ停止シ片舷機ニ航行中解放
檢査セシテ滑頭耳軸上部落解ニテ長サ八寸幅四寸半最
大ノ部ニ深サ八分ノ寸ノ凹部ヲ生セリ由テ之ガ在クニ修理ヲ
候補生總員ニ実習セシム午後七時十六分島前ニ投錨

七、五

午前二時三十分ニ航海至直ニ服セシム午前五時三十分島前
投錨午後五時四十分蒲津至番澤禰檢査候補生總員
大湯上陸ヲ許ス

0593

七一六

午新石炭庫自測実器戦中抜削前板法運動部
塔熱 実空計過降後水吞漏洩運転急止場合
ニ行ふキ度並進併ニ作業ニ就テ説明ス午後右舷低圧部
消火弁蓋蓋取外ニ内部検査ヲ行フ軍事兵検台一部兵入
湯上陸ソ許ス

七一七

午前海鶴海軍ニ敵ニ於テ右野造航文監ハ船渠及クガ
ニ就テリ内造航大技士中軍艦河野ニ設計セル「フォースド
ラブリケー」ニ就テ藤井技師ハ「シゲ」ニ「アイソグロ
ニ就テ」講話ス終テ造航部見學子午後造航部及造兵部
見學子軍事兵検台一部兵入湯上陸ソ許ス

七一八

午前船渠木ニ於テ軍艦兵士主校械罐補助校械航体等
見學子午後軍艦内丹後主校械罐及補助校械見學子
補助第七号第一号ニ炉台同石炭消費額試験ヲ行フ軍

七、二、二
事矣換台一部矣入湯上陸ソ許ス

午前兩舷推進軸承検査ノ上調整ヲ行フ午台右舷高及
低圧滑弁調整ヲ行フ補用第九号缶第一第二炉は同一

ニ陸ソ許ス
シテ石炭量試験ヲ行フ軍事上矣換台一部矣入湯

七、二、三

午前左舷主復水器基盤ノ取外シ細管ニ本ヲ抜キ去リ検査
上細管ヲ取付水圧試験及真空試験ヲ行フ午右舷高圧
滑弁調整終ニ右舷低圧滑弁ロリーフリックし検査ヲ

行フ軍事上矣換後半舷上陸ソ許ス

七、二、四

本日補用第九号缶中央炉筒ノ矣火俣用セリ午前八時本
船弁見學ノ為メ京都ニ趣キ旅館ニ投宿

七、二、五

京都市水利部流水ノイニクライシ水力發電機京都
府所ニ條離山宮拜觀終ラ旅館ニ投宿

七、三三、天
午前九時京都糸師航

七、三四、水
午前予備中保存法復水器官欠披せん片ノ仮修理法及

管ノ入換電路ノ修理發電機ノ採法及配電法ノ説明

上実習入渠中並ニ其前後ニ行フヘキ準備及検査ノイ

シクモーショント檢測ノ説明午後電力計ノ実習計ノ誤

差檢測ヲ実習セシメテ諸官裝置ヲ見取ラシム軍事

兵檢台一部兵入湯上陸ノ許ス

七、三五、水

午前第一号出水圧試驗ヲ行フ終テ諸官裝置ヲ見取ラ

シ午後出水圧試驗ノ方法ヲ説明白諸官裝置ヲ

見取ラシム軍事兵檢後一部兵入湯上陸ノ許ス

七、三六、金

午前第九号出水安全弁調整ヲ実習セシメ次ニ機檢室ニ

重底ヲ検査セシム午後ニ重底検査ニ就テ説明白勤務

録ノ記述ヲサシム軍事兵檢後一部兵入湯上陸ノ許ス

七、二七、(五) 午前防火操練ヲ行フ終ク勤務録記註ヲカシ午後半艇上

陸ヲ許ス

七、二八、(四) 午則石炭搭載ヲ実習セシム午後候補生総員ニ講上陸許ス

七、二九、(三) 午前六時ヨリ航海者直リナシム午後一時至三十分舟鶴浮標

ヲ内シテ港ニ進出備運転トシテ毎分運轉數ヲ百回増シ午後

三時至六分粟田灣ニ投錨シ埋火ニ航海直リス

七、三〇、(二) 午前零時缶ヲ起火シ午前^{七時}分粟田灣ヨリ投錨シ午前四時

九分自然通風全力運転ヲ開始セシ後余室送風板機故

障ヲ為シ前運転ヲ中止シ午前七時ヨリ自然通風全力五分三

運転ヲ八時尙繼續シ午後三時高力運転結了午後三

時至五分杵ノ木ニ投錨シ食後候補生総員ニ雲大社

ニ参拜セシム

七三一(水)

午前七時本艦候補生総員並指道官一名付添り軍艦
須賀等軍艦候補生総員並指道官一名本艦
ニ来り午前七時五十分梓ヲ抜錨し五十分敵艦捕獲ニ於テ
ル桜械薩補助桜械操法ヲ実習セシメ午四時四十分秋
ニ枚錨久良候補生総員上陸ヲ許ス午九時三十分
海軍並ニ版セシム

八二(水)

午前四時三十分秋抜錨午前七時世分合戦準備今七時四
十分戦闘操練今時防火操練ヲ行ヒ午前九時世分合
戦準備元ノ渡シ方終ラ解散午四時世分安下ノ左枝
錨午後七時世分ヨリ今十時世分至十四時周旋ニ奮効力試案演習セ
午前三時ヨリ航海並ニ版セシメ午六時四分抜錨上廣島
湾ニテ水雷艇行スルキ處車地桜械ノスプロケトトラム
破壊セシメ為メ予定ノ変更ノ修理為メ並ニ尖軍港ニ回航ス

八二(水)

八三三

右九艘並候補生ニ定律焚火法及分隊事務ヲ説明ス午後二時
世四分半浮標ニ教習留之終リ候補生總員基本配置編成ヲ
説明ス夕食後候補生總員入湯上陸ヲ許ス

八四二

午前右岸搭載ヲ実習セシム午後半艇上陸ヲ許ス右舷並候
補生ニ定律焚火法及分隊事務カヲ説明ス

八五〇

午前分隊兵換並 勅諭奉読ヲ施行セシム此際候補生右
二部兵ヲシテ五分隊及五分隊ニ附属セシム被服兵換ヲ行ヒ分隊
從屬士官ノ業務ヲ見習ヒム午後半艇上陸ヲ許ス

八五五

午前勤務録ノ記註ヲナル候補生布野英第一種痘
依リ岩田軍病院入院午後右岸搭載前台準備並ニ處
置ニ就キ説明ス終リ勤務録ノ記註ヲナル軍事兵換台
一部兵入湯上陸ヲ許ス

八六〇

午前夜合時ニ航母を直リナリ午前六時至七分半浮標ヲ

八七(水)

高レ本港又午前八時候補生総吏高力運転前準備並
肩運転ノ處置ニ付説明ニ概圖日誌摘要ノ記註ヲ実習
せしめテ航海ニ直ニ及ヒテ午後六時一ノ栗島ニ投錨

午前六時五十分栗島投錨正午三十分後四時三十分迄
候補生総吏ヨリテモ直板屋官ノ職分及注油給水焚火等總テ
ヲ受持スルム

八八(水)

午前四時三十分候補生ヨリテ航海ニ直ニ及ヒテ午後候補生
高庄南内ノ音御音及之ヲ防キテ方法ニ就キテ説明ス午後
五時廿四分清水ニ投錨候補生総吏ニ入湯上陸ヲ許ス

八九(金)

勤務ノ録ノ記註ヲナシム軍事兵檢一部員入湯上陸ヲ許ス
午前防火操練終テ温習午後半艇上陸ヲ許ス

八二(日)

午前令隊點檢並ニ艇内點檢ヲ施行セラシメテ温習午後
半艇上陸ヲ許ス

八一三
月

半艇上陸ヲ許ス

午前七時世々ヨリ全土時世々迄清水高専ヨリ常中カ學校
ニ於テ操縦法ノ試験ヲ施行ス軍事兵檢台一部員ニ入湯
上陸ヲ許ス

八一三
日

午前七時世々ヨリ全土時世々迄清水高専ヨリ常中カ學校
校ニ於テ整理法ノ試験ヲ施行ス軍事兵檢台一部
員ニ入湯上陸ヲ許ス

八一四
日

午前七時世々ヨリ全土時世々迄清水高専ヨリ常中カ學校
ニ於テ実験法ノ試験ヲ施行ス軍事兵檢台一部員ニ入湯
上陸ヲ許ス

八一五
日

午前七時世々ヨリ全土時世々迄清水高専ヨリ常中カ學校ニ於
テ部署及配置ノ試験ヲ施行ス軍事兵檢台一部員ニ
入湯上陸ヲ許ス會々以テ第二期業務練習ノ試験結了ス

八、六、五

八、七、五

八、八、五

八、五、五

八、二、五

予所司候補生總典上陸ノ許ス

校閲日誌整理及校閲日誌記註
此年信半艇上陸ノ許ス

右ノ令

校閲日誌記註勤務録記註
ヤサレム軍事ノ檢

後一部ノ要ニ入湯上陸ノ許ス

本日より横ス架ノ掃着ニテ
第二期練習心得及分隊事

務諸法規類ノ就テ説明
水泳練習

0602

九、懲罰疾病等練習候補生人事

衛生ニ関スル事項

一、練習中懲罰ニ處セシムルモノナシ
一、衛生ニ関スル事項ハ別冊ノ如シ

0603